

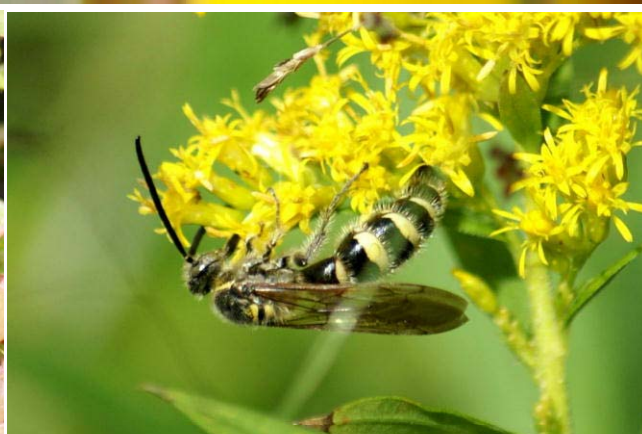
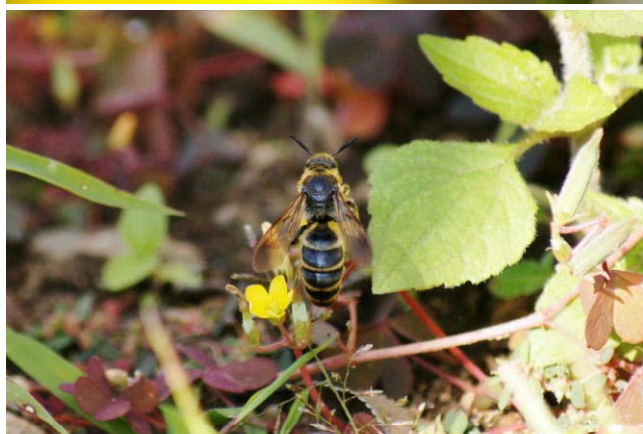
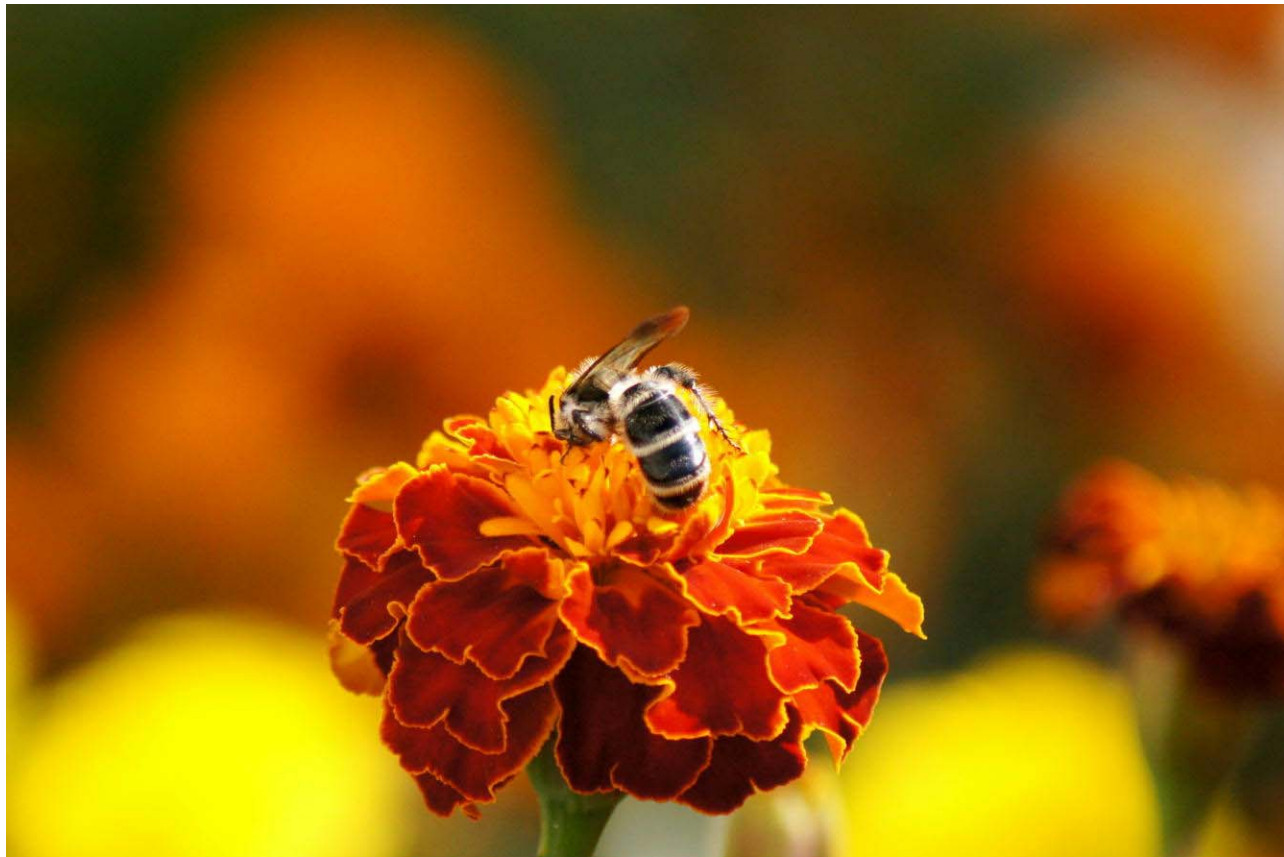
牛久：学校周辺に見る自然

第25号 牛久二小

2013年12月3日発行

< 秋の生きもの観察 ③ハチ >

11/6、牛久二小4年生と秋の校庭観察。今回はハチのなかまです。



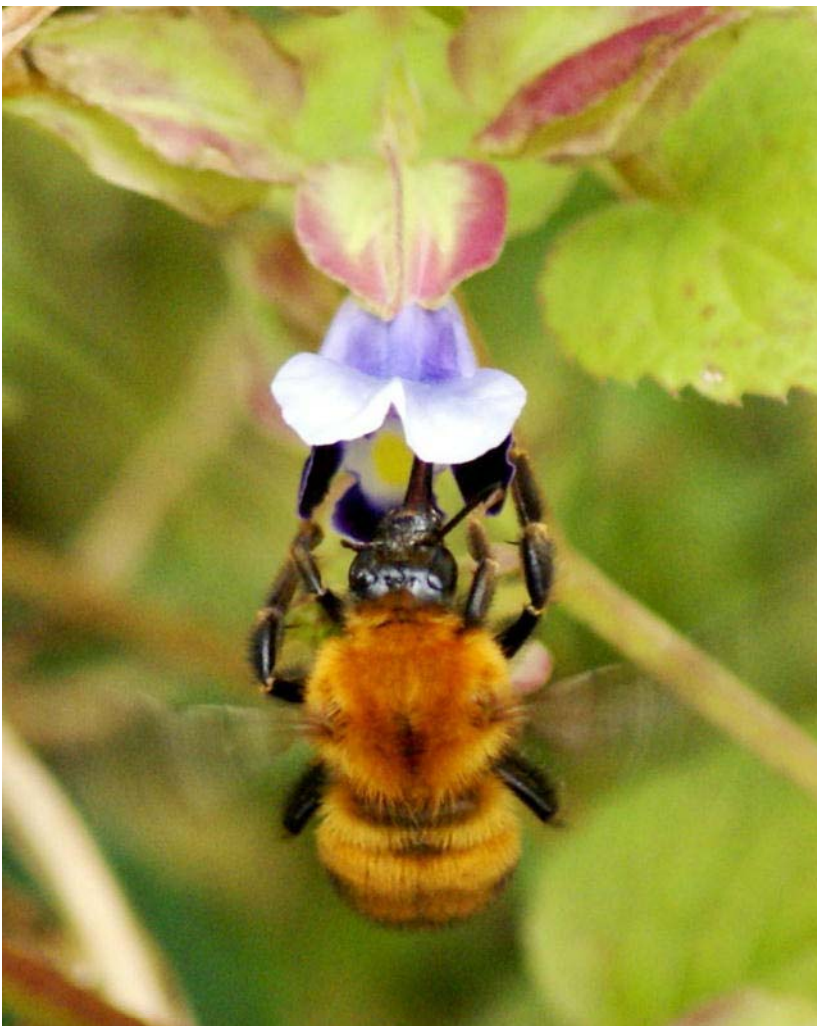
ヒメハラナガツチバチ。マリーゴールドの花みつを吸うメス(上)と、カタバミのみつを吸うメス(下左)、セイタカアワダチソウのみつを吸うオス(下右)。その名の通り、はら(腹部)が長い。

風は少しつめたいものの日ざしが暖^{あたた}かく、ハチの仲間も観察できました。ただし、ミツバチなど春や夏に多く見られたものではなく、ツチバチの仲間がほとんどでした。花だんのマリーゴールドやグラウンドのすみのセイタカアワダチソウ、足もとのカタバミなどでヒメハラナガツチバチがさかんに花みつを吸っていました。セイタカアワダチソウは花粉症^{かふんしょう}の原因とされたこともありますが、昆虫が運ぶ花粉は風で飛びにくく、ふつう花粉症の原因とはなりません。それにしても、あちこちの花で見られたミツバチたちは、どこに行ってしまったのでしょうか？また機会^{きかい}がありましたらお話ししますね。



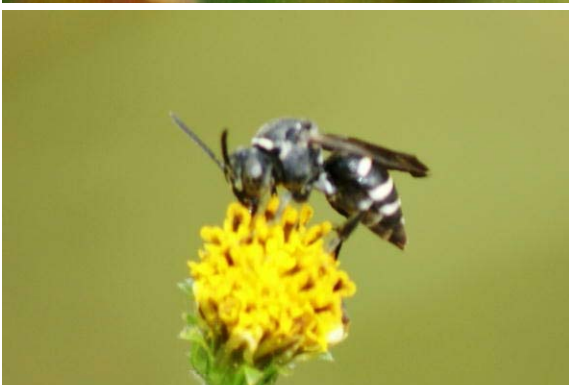
キンケハラナガツチバチのオス。セイタカアワダチソウの花みつを吸う(左)。クレオメのみつを吸う(右)。

こちら、ツチバチの仲間。よ〜く似ていますが別の種類で、キンケハラナガツチバチといいます。セイタカアワダチソウや、花だんのクレオメなどのみつを吸っていました。やはり、腹が長い。



花だんでは、トレニアの花に丸いずんぐりとしたハナバチ、**トラマルハナバチ**が来てみつを吸っていました。トレニアは別名「夏スマレ」ともよばれますが、初夏から10月頃まで咲くので、もう最後の方の花かもしれませんね。トラマルハナバチも春から10月頃まで見られるハチなので、これで見おさめになりそうです。何度かご紹介していますが、体も大きくて羽音もぶ〜んと、いかにもこわそうな感じがしますが、ミツバチに近い仲間でおとなしいハチです。それでも手でつかまったり巣をこわされたりすれば攻撃しますし、ミツバチと違い針に返さないので何度も刺してきます。また、刺された場所のにおいが分かり、仲間といっしょに攻撃してくることもあるそうですから、怒らせないように気をつけましょう。

トレニアのみつを吸うトラマルハナバチ。



動物の毛皮などにそひっついてタネが運ばれるコセンダングサの黄色い小さな花に、**ミカドドロバチ**が来てみつを吸っていました。「狩りバチ」の一種で、ガの幼虫などをつかまえては巣に運びこみ、幼虫のえさにします。その名の通り、どろを使って竹つつなどに巣をつくります。

【理科支援員：宮内】

コセンダングサの花みつを吸うミカドドロバチ。